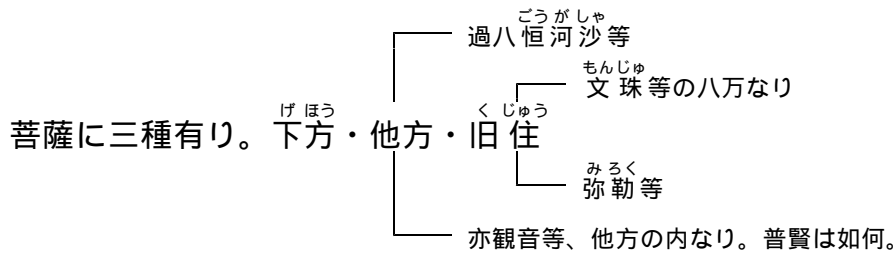


文句の九に云はく



文句の九に云はく「是我が弟子なり、応に我が法を弘むべし」と。記の九に云はく「子、父の法を弘むるに世界の益有り」と。文句の九に云はく「又他方観音等はは此の土に結縁他方がの事浅し」文。道暹の輔正記の六に云はく「付嘱記の六の付嘱に下有り此有り。とは此の経は唯下方涌出の菩薩に付す。何が故ぞ爾る。法は是久成の法なるに由るが故に、久成の人に付す」と。記の四に云はく「尚偏に他方の菩薩に付せず。豈独り身子のみならんや」と。

竜樹・天親・南岳・天台・伝教等本門を弘通せざる事

一には付嘱せざるが故に。二には時の来たらざるが故に。三には迹化他方なるが故に。四には機未だ堪へざる故に。

竜樹は迹門の意を談宣し、天親は文に約して之を釈し、化導の始終を明かさず。天台大師は本迹の始終を弘通す。但し本門の三学は未だ分明ならざるか。

記の八に云はく「因薬王等とは、本薬王に託し、茲に因せて余に告ぐ。此の流通の初めに先づ告八万大士とは、大論に云はく、法華は是秘密なれば、諸の菩薩に付す。今下の文に下方を召すが如きは尚本眷属を待つ。驗けし余は未だ堪へざることを」と。大論の一百に云はく「問うて曰く、更に何の法が甚深にして般若に勝る者有ってか、般若を以て阿難に嘱累し余経をもつて菩薩に嘱累すること有りや。答へて曰く、般若波羅蜜は秘密の法に非ず。而して法華等の諸経に、阿羅漢の受決作仏を説くは、大菩薩のみ能く受持し用ふること、譬へば大薬師の能く毒を以て薬と為すが如し」と。

竜樹菩薩は迹化他方なるか、旧住なるか、地涌なるか。

南岳観音、感通、天台薬王、感通、伝教も亦是くの如し。

大論の一百大品経嘱累品を釈するなり。大品経は阿難に付嘱す。大品経は四十卷九十品、最後は嘱累品なり。に云はく「問うて曰く、若し爾らば法華経諸余の方等経何を以て喜王喜王とは薬王が諸菩薩等に嘱累するや」と。記の八に云はく「法華は是秘密なれば諸の菩薩に付す。今下の文に下方を召すが如きは、尚本眷属を待つ。余は未だ堪へざることを」云文殊・薬王等も未だ涅槃へず等と云ふか。涅槃経の三に云はく「若し法宝を以て阿難及び諸の比丘に付嘱せば、久住することを得ず。何を以ての故に。一切の声聞及び大迦葉は悉く当に無常なるべし。彼の老人の他の寄物を受くるが如し。是の故に応に無上の仏法を以て諸の菩薩に付すべし。諸の菩薩は善能問答するを以て是くの如き法宝は則ち久住することを得て、無量千世に増益熾盛にして衆生を利安せん」と。